

Eureka V

六年制通信 No.31 平成30年1月27日(土)号

道徳について

私たちの中学時代に道徳の授業があったかどうかは記憶にないのですが、小学生のころは（私は津市の新町小学校の卒業です）週に一度くらいかな、畳の部屋でテレビを観ました。「明るいなかま」とか「みんななかよし」といったNHK教育のドラマです。今でも、たまにですが、「口笛吹いて空地へ行った〜♪」というテーマソングを思い出すことがあります。内容は全く記憶にないですけどね。NHKのドラマでは、私は「わんぱく天使」という番組が好きでした。ある回のワンシーンだけは、どういうわけかいまだに鮮明に覚えています。道徳と関係はないのですが、主人公の少年が親戚のおじさん（これが非常に怪しげな感じの人なんです）に公園で料理を作ってもらおうのですが、おじさんが、これはジンギスカンよりうまいからナポレオンという料理なんだと言うのです。鶏肉を串に刺して塩を振って炭で焼く（焼き鳥ですわな）だけの料理なのですが、これがまた子供心に美味しそうでね。強く印象に残っています。それしか覚えていないのですから、番組製作者が聞いたらがっかりするでしょうがね。とにかく、道徳の時間と言えばテレビの時間という印象しかなかったな。

まもなく中学校でも道徳が教科化されますが、これ、なかなか難しいのですよ。英語や数学では、それぞれその教科の専門の先生が教えるわけですが、道徳はそうはいきません。すべての担任が行うことになるわけです。本来、教科を教えるには免許が必要です。英語の先生は英語の教員免許を取得しています。漠然とした「教員免許」ではなく、教科の免許なのです。ですから、いくら歴史が好きだからといっても、英語の先生が社会の授業を持つことはできません。従って、道徳科は特別教科と位置づけられています。道徳科には教員免許はないのですからね。

ただ、道徳とは何かについて、私たちはわかっているようでよくわかっていない気がします。例によって『明解』に聞いてみると「社会生活の秩序を保つために、ひとりひとりが守るべき行為の基準」とありますが、う〜ん、これは要するにマナーのことですね。秩序を保つための行動の基準だけなら、「〇〇してはならない」という事柄の羅列になってしまいます。これだけなら授業をするまでもなく箇条書きで済んでしまいますし、家庭でも十分に教えられ（躱けられ）ます。学校なら生徒手帳にでも書けばいいことでしょう。それで、何を教えたいのかは教科書を調べるのが一番ですから、実際に道徳の教科書を見てみると、普通の大人なら知っていること、理解できること、弁えているべきことなどがたくさん書かれています。また、歴史上の人物（哲学者や政治家に限らず数多くの分野の偉人たち）の言葉も紹介されています。偉人伝

のような趣もあるし、人生の真理をついた箴言なども収録されています。成長期である中学生のうちに、そういった言葉に触れるのはとてもいいことです。何かしら、大人になっても心に残る言葉と出会えるといいですね。こういった偉人たちのエピソードや言葉の数々を家庭で「計画的に教える」のは困難だと思います。それで授業化するようにしたのでしょね。なるほど。

つまり教科書の内容から判断すれば、道德の時間を通して、単なるマナー講習のような領域を越えて「よりよく生きる」、「自分以外の他者と共生して生きる」ことの重要性を君たちは学ぶわけです。また、そのためにはどのように考え、どのように行動すべきか、多くの先人たちの声に耳を傾ける機会に、この道德の時間になるといいですね。人生を前向きにとらえていこうという感じがしますね。ですから、教科になったからといって、評価の対象にはなりませんし大学受験の科目にもなりません。しかし私はこの時間を通して、君たちには多くを学んでほしいと思っています。自分の人生について真面目に考えてほしいと思います。

そういえば、世の教育評論家の皆さんも道德教育の推進には熱心でして、あるとき誰か忘れましたが、杉原千畝を教えるべきだと力説していましたな。杉原さんのことは君たちも知っているでしょうが、第2次大戦の折、多くのユダヤ人を救った人ですね。折にふれて私は君たちに「^{わたくし}私を捨てて^{おおやけ}公に尽くせる人材になれ」と言っていますが、もちろんこれが人間と動物との決定的な違いだと思うからだし、教育の方向としては正しいと信じているからです。杉原さんが外務省の命令に反して、人道的見地からビザを発行し続けた行為は、確かに立派なことだと思います。世界からも称賛を受けていますよね。実はちゃんと教科書に載っているんですよ。こういう人が道德の教材として選ばれ、君たちに紹介されることは好ましいことだと思います。

ただ私は、例えば杉原さんなら杉原さんの、その立派な行動を学んだ後も、君たちにはずっと考え続けてほしいと思います。自分なら彼のような行動ができるかどうか。しかし今の価値観で判断してはいけませんよ。あの時代のあの立場に身を置いて、と想像するには多くの勉強が必要です。ですから高校生になっても大学生になっても考え続けてほしいのです。さらに言えば、偉大な行為をした人のマイナスの部分（人間ならあるでしょうから）も学んでほしいと思います。それらは教科書には載っていませんが両面を知って、その上で、総合的な判断をするべきだと思います。

今週のおすすめ

・岡嶋二人 『99%の誘拐』（講談社文庫）

徳山・井上の二人がプロットと執筆を担当するという、日本では珍しい作家です。乱歩賞の作品（「焦茶色のパステル」）からしばらくは競馬を題材にしていますが、今回はコンピューターに制御された復讐の誘拐、というところでしょうか。私としては、謎解きよりもむしろ、スリリングな文体と展開をお楽しみください、と言いたいですね。ちなみに知念実希人の『仮面病棟』は、評判のわりにイマイチだったなあ。